

# 令和6年度 十勝教育研究所

約160名の先生方にご参加いただき、今年で28回目となる十勝教育研究所研究発表大会を、盛会裏に終えることができました。

今年度も、Web会議システム（Zoom）を活用したオンラインでの開催とし、勤務校等から参加していただきました。

研究理論提案・実践発表後の実態交流では、参加者が自校や自身での取組と関連付け、明日からの授業に生かせる交流を目指し、ブレイクアウトルーム機能を活用して行いました。

本大会にご協力・ご参加いただきました皆様に、心より感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

## オンライン

# 共 同研究

**共同研究**については、研究理論提案の後、小・中学校それぞれ2回の授業実践を紹介しました。課題や目的意識を共有し、自己決定の場をつくる「考えを広げ深める対話の工夫」と、視点を明確にして共有・比較をする「学びをつなげる振り返り」を通して、自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究を進めました。



授業者 齋藤 織斗 教諭  
大樹町立大樹小学校  
第2学年 国語科



授業者 長澤 翔太 教諭  
幕別町立幕別中学校  
第3学年 数学科

### 参加者アンケートより

- ・振り返り時に「感想を書こう」ではなく、「つながり」「疑問」のようにテーマを与えるというのは、大切な視点だと感じました。
- ・「対話」や「振り返り」の時間は、意識して授業内に設けているつもりでしたが、振り返りの有効活用について、考えさせられました。また、自己決定の場の設定の大切さがよく分かりました。
- ・対話と振り返りを用いて授業を行うことで、子どもがよりよく変容していくことが、アンケート結果などからよく分かりました。

### 共同研究実践発表



### 研究発表大会運営の様子



研究の詳細は、2月上旬にお届けしております「研究紀要 No.219」をご覧ください

# 研究発表大会

令和7年2月6日（木）  
十勝教育研修センター

## 開催

# 協力員研究



協力員研究については、研究理論提案の後、小・中学校それぞれ「特別活動（学級活動）」の授業実践を紹介しました。「日常モラルを生かした学習内容の工夫」と、「一人一人が意思決定する学習展開の工夫」を通して、他者を尊重し、責任をもって行動する子どもを育む研究を進めました。



協力員研究実践発表

授業者 西嶋 健悟 教諭  
新得町立新得小学校  
第6学年 特別活動



授業者 青木 大地 教諭  
音更町立共栄中学校  
第1学年 特別活動



参加者アンケートより

- ・擬似体験をさせることで、子どもが自分ごととして捉えられるすばらしい実践でした。
- ・感想の中で、単発の学習になってしまっているというのは共感しましたし、日常的に意識するためには、「繰り返しの学び」や「日頃から意識できるような視点」の共有が大切だと感じました。資料の準備等、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

新山局長のご祝辞



研究に関わる資料はQRコードからもダウンロードできます。

ください。校内研究や日常の授業実践にご活用いただければ幸いです。

